

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800293		
法人名	五健有限会社		
事業所名	グループホーム太陽の郷		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町大字三ヶ野山608-9 (電話) 0984-44-2298		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月19日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム太陽の郷は野尻町の緑豊かな郊外の民家が点在する一角にある。近くには児童公園があり、利用者の散歩コースとしても良い環境である。日当たりの良い玄関先には季節の花が植えられ、家族が気軽にいつでも訪問できるよう雰囲気作りに配慮している。利用者家族のほとんどが1か月に1～2回は訪問している。利用者や職員の表情が明るく和やかであり、職員がケアのかかわりの中で、「利用者や私達で笑顔の暮らしを楽しもう」の理念を意識しながら取り組んでいる姿勢がうかがえた。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】（平成20年12月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤4人, 非常勤8人, 常勤換算7.6人	

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(20,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

（4）利用者の概要(平成21年12月30日現在)

利用者人数	8名	男性 0名	女性 8名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 90歳	最低 80歳	最高 101歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人友愛会園田病院
---------	-------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。外部評価の結果を全職員で話し合い、日々のケアの改善につなげるよう取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回のミーティングにおいて、自ら取り組んでいるケアの振り返りを行っている。それを踏まえて、職員一人ひとりが自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回、家族会と合わせて開催している。会議では事業所からの報告と共に、参加メンバーからの意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望は課題として検討し、前向きに取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には積極的に声かけし、意見や要望、苦情を聴くようにしている。出された要望や苦情は検討し、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時にはあいさつや言葉を交わしている。近隣から季節の野菜の差し入れがある。また、ホームのイベントに近隣の人々を招待したり、地区の保育園への訪問や中学生がボランティアで遊びに来てくれるなど、地域との交流がある。非常災害時における協力体制がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービス提供場面において、理念が反映されているかをミーティング時に職員間で話し合い、共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時にはあいさつや話を交わしたり、近隣から季節の野菜の差し入れがある。また、地区の保育園を訪問したり、中学生のボランティアの受け入れがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回、家族会と合わせて開催し、事業所からの報告と共に参加メンバーからの意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見はサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者や地域包括支援センターにホームを理解・支援してもらうよう情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には声かけをし、利用者の暮らしぶりや健康状態等を個々に合わせた報告をしている。また、毎月ホーム便りを発行し、職員の異動や事業所の行事等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見や苦情は課題を検討し、質の向上を目指す取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多く、利用者にとってなじみの職員が継続的に支える体制になっていない。	○	事業所は、利用者と職員とのなじみの関係を重視し、離職を最小限に抑えるための具体的な努力や工夫をしてほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修については研修報告書を作成し、ミーティング時に研修内容を報告し、全職員が共有できるようにしているが、職員各自に応じた段階的、計画的な学びの機会が確保されていない。	○	全ての職員が地域密着型サービスの従事者として質を向上させていけるよう、事業所内・外での研修に参加できるよう工夫と配慮をしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で今年1月に勉強会を立ち上げ、学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が会いに行ったり、ホームに遊びに来てもらうなど、徐々になじんでもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや食事の後片づけなど利用者ができることを手伝ってもらいながら、ねぎらいの言葉かけを行って互いに支え合う関係を築いている。また、人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化の大切さを教えてもらう場面がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴やこれまでの暮らし方などの情報を共有し、日々のかかわりの中で言葉や表情から思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、利用者や家族の思いや意見を聴き、職員全員での意見交換を行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、定期的見直しを行うとともに、月1回開催のミーティング時には、介護計画の遂行状況及び効果などを評価している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の取り組みや利用者、家族の状況に応じて通院の支援は柔軟に対応している。また、居室に空きがある時は、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイを利用できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のこれまでの掛かりつけ医での受診を基本としながら、本人と家族の同意を得て、協力医療機関からの往診など適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について話し合いを行ってはいるが、対応方針の共有には至っていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、重度化した場合の対応については、利用者や家族、掛かりつけ医、職員等関係者と早期から話し合いを行い、全員の方針の統一を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保について理解している。訪問中は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような態度は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を大事にしなが、食材は旬の物を利用している。利用者と職員が同じ物を同じ食卓で楽しく会話しながら食べていた。食後は利用者と職員が一緒にお盆ふきなど片づけを行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日や時間の取り決めはあるが、利用者の体調に合わせて清しきに変えるなどの配慮を行っている。また、ゆず湯や入浴剤等を使って、利用者が楽しんで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の皮むきや食事の後片づけ、洗濯物たたみ等、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を支援している。また、中学生のボランティアを受け入れて一緒に会話を楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の暖かい日は近隣の散歩など、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は居室や玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練、消火訓練などを実施している。災害時における地域との協力体制がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量を職員全員で把握し、飲食量の低下を防ぐよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間など不快な音やにおいもなく、利用者が安心して心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真が貼ってあったり、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。